

# 小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	1	施策名	地域福祉の推進	
小施策コード	1-2	小施策名	共に支え合うことができる地域環境づくり	
小施策 主管課等コード	061500	小施策 主管課等名	地域福祉課	
評価責任者名	小原 勝博	内線番号	2520	
評価シート作成者名	佐々木 一憲	内線番号	2521	

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

現状と課題	<p>隣近所付き合いの希薄化と活動の担い手不足などによる地域の支え合い体制への懸念や除雪や買い物といった日常生活支援に対するニーズが高まっています。</p> <p>団塊の世代や若い世代の地域活動への参加促進などを通じた担い手の確保、見守り活動やサロン活動の推進、日常生活支援の活動拠点づくり、地域福祉を担っている地区福祉推進会への支援などにより、地域において支え合う環境を整備する必要があります。</p>
取組の方向性	一人ひとりが地域の一員として、共に支え合う意識を持ち、住み慣れた地域で、誰もが地域の一員として尊重され、自立した生活を送ることができる地域環境の整備を推進します。
対象 <small>(誰(何)を対象として行うのか)</small>	市民、地域
意図 <small>(対象をどのようにしたいのか)</small>	共に支え合うことができる環境が地域に醸成される。

## Step 2 成果指標の推移

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていることを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 地域支援者の数（地域支援者とは、避難行動要支援者の避難に協力できる人である。） (↑)	人	8,170	8,789	8,500	8,900
B ( )					
C ( )					

### Step 3 市民ニーズの把握

平成 25 年度に実施した地域福祉ワークショップ，地区民生委員協議会との懇談会等によれば，老人福祉センターなどを拠点とした地区福祉推進会を中心に，民生委員・児童委員，シルバーメイト，地域住民による見守り活動や地域支え合いマップ作成など地域における支え合い活動が積極的に行われている。なお，地域支え合いマップが作成されている地域は増加傾向にあり，大雨などの災害時における助け合いにおいても，避難支援の一助となっている。

平成 25 年度に実施した地域福祉ワークショップ，地区民生委員協議会との懇談会等によれば，買い物，除雪など日常生活支援に対するニーズが増加傾向にある。

平成 25 年度に実施した地域福祉計画アンケートによれば，隣近所で困っている人に手助けできること，手助けしてほしいことを比較してみると，安否確認，話し相手など気軽にできるもののほか，ちょっとした買い物や家事，ごみ出しや玄関前の除雪など日常生活支援でも，手助けできると回答した人が手助けしてほしいと回答した人を上回っている。このことは，平成 27 年度に地区福祉推進会を単位として，モデル的に 2 地区で実施した調査においても同様の傾向が見られる。

### Step 4 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	地域における福祉活動が促進されるよう，必要な支援を行なう。	30
	国・県・ 他自治体	市の取組に対する後方支援を行う。	20
	市民・ NPO	地域における福祉活動に参加する。	30
	企業・ その他	企業の社会貢献として，地域福祉活動に参加するほか，従業員の地域活動への参加を促進する。	20

#### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

各主体の役割の状況は，現時点で最適な比重である考えられるため。

## Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

地区福祉推進会単位としたモデル地区2地区を指定して、地域における日常生活の支え合いに関する実態調査や企業の地域活動に対する実態調査を実施したことで、地域福祉活動などの現状やニーズなどを定量的に把握することができた。

#### (2) 成果をあげた要因

モデル地区を指定して実施したことにより、小地域における実態を把握することができた。

#### (3) さらに成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

モデル地区で実施した調査結果をもとに、企業の協力など新たな社会資源の開発も含めた小地域における地域の支え合い体制が機能するような環境の整備や仕組みの構築に向けた調査を引き続き実施する。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

日常生活における支え合い活動の実態調査の結果によれば、支援を求める人に対し、支援できる人が潜在的にいるものの、実際の支え合い活動までに至っていない。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

単身世帯や核家族世帯の増加などの家族形態の変容や地域コミュニティの希薄など地域社会を取り巻く環境が変化している中で、地縁を中心とした地域福祉活動が従来の機能を十分に発揮できない状況になっているなどが考えられる。

#### (3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

多様化・複雑化あるいは深刻化する福祉課題に対応するため、公的な福祉サービスだけでなく、持続可能性の高いインフォーマルな福祉サービスやコミュニティビジネスなど、新しい社会資源の開発が求められている中において、地域の社会資源がその機能を発揮できるような環境の整備や仕組みの構築が求められている。

### 3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

企業の協力など新たな社会資源の開発も含めた小地域における地域の支え合い体制が機能するような環境の整備や仕組みの構築などについて検討するため、盛岡市社会福祉協議会と連携して、モデル地区などにおいて懇談会を開催する。

## Step 6 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

### 2 1で記載した事業についてその理由

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）